

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401335		
法人名	有限会社 藤田企画		
事業所名	グループホーム 佃の里		
所在地	長崎県雲仙市吾妻町永中名47-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人職員が増え、指導を兼ねてベテラン職員も初心へ返り、介護の基本、利用者様への接し方など再確認しながら、より良い介護を提供するようにしている。</li> <li>・社内研修を積極的に行い、職員一人ひとりの質の向上を図り、利用者様への気配り等利用者様の暮らしやすいホーム作りをして、安心・安全・満足していただけるように努力している。</li> <li>・利用者様と話をしたり、やコミュニケーションを積極的に行い、利用者様との信頼関係に作るようにしている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは入居者毎の担当職員制は設けておらず、職員が全員で入居者それぞれを把握するよう取り組んでいる。業務を職員に任せきるのではなく、できないことは手分けして職員が互いにコミュニケーションを図りながらチームで介護実践することを大切にしている。管理者は介護技術のバラツキを最小限にし、職員一人ひとりの能力を上げ、支援の質の向上を図ることで常に一定レベルのサービスを提供し、入居者及び家族が安心・安全で満足してもらえることを目標にして取り組んでいる。現在はコロナ禍の為、毎年行われていた近隣の小・中学生との交流は中止しているが、近隣小学校の桜を見に出かけるなど個別に外出の機会を設けたり、接触時間を減らして誕生会を開催するなど工夫しながら支援に努めている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム佃の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員を目指し、近隣との付き合いを大切にしている。職員の入れ替わりが多々あるため、実践につなげることがなかなかできないときもあるが、これからはしっかりと実践につなげていく。	理念はホームの事務所に掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。管理者は職員会議や運営推進会議などの機会を通じて理念について話したり確認するなどして周知に努めている。今後、管理者はコロナ禍を踏まえ、理念の実践を具体的にすすめる意向にある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の中学校からの体験を受け入れている。町内外の2校の中学生と近隣の小学生との交流の時間を作り、利用者もとても喜ばれていた。	現在、コロナ禍の為毎年行われていた近隣の小・中学生との交流は中止している。尚、隣接する同法人のデイサービスセンターの利用者との短時間の交流や接触時間を減らして誕生会を開催するなど地域との交流を継続できるよう工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況を知らせると共に地域の情報など話題としている。ご家族への参加も面会の折りなどを利用して呼びかけているがなかなか時間が合わず参加が難しい。	現在、コロナ禍の為運営推進会議は職員のみで実施し、会議録を運営推進会議のメンバーへ送付している。入居者の健康状態、ヒヤリハット・事故報告のほかコロナ禍で行事を自粛しているためホーム内での行事状況を伝えている。また、身体拘束廃止委員会の情報も知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会など含め常によき相談相手になってもらっている。やってほしい研修会などを提案している。地域ケア会議へ参加し、情報提供を行っている。	雲仙市または島原地域広域市町村圏組合の職員が運営推進会議に参加し、ホームの現状を伝え様々な情報を入手している。ホームはボランティア活動等地域貢献を行いたい意向を伝え、管理者が地域ケア会議に参加するなど地域の情報を入手し協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束なのかをスタッフが共有し常に良い方向を探している。社内での介護職員の研修会や社外の研修に積極的に参加させ再度スタッフへの周知徹底、指導を行っている。	調査日現在、身体拘束が必要な方はいない。ホームに身体拘束廃止委員会を設置し、取り組みの情報は運営推進会議にも諮っている。職員はコロナ禍により身体拘束に関する外部研修に参加できていないが、内部研修を実施し、あらためて身体拘束廃止に関する指針を確認するなどして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より困難な介護については全員で共有し、一人で抱え込まないように声に出すようにしている。また、一人一人の介護技術を見てどこまでが虐待につながるかなど注意を促している。 ストレスチェックを定期的に行い職員への意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての紹介を行っている。勉強会への参加もしている。 広域基礎研修等への参加を促し学ぶ機会を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項については十分に行っている。又、後日の質問についても納得されるまで説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や希望は届きにくいのが現状だが、面会に来られた際などに家族からの意見などが聞かれないか聞き出し、運営に生かし利用者家族が満足いく運営ができるよう努力している。	入居時にこれまでの本人の生活歴を確認している。コロナ禍の為、家族の面会は制限し、電話や短時間(10分程度)での面会としている。入居者との会話から要望や意見などを聴き取り業務日誌や申し送りノートを通じて職員間で共有を図っている。	コロナ禍により家族と入居者が触れ合う機会が減っている現状が窺える。例えばホームだよりを定期的に発行して入居者写真を掲載するなど入居者の様子を積極的に伝え、家族の安心感に繋がる今後の取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の間には大差がない、気付きを取り入れ、よりよい運営を目指している。	ホームでは職員が各業務の役割を担い、運営が円滑にすすめられるよう取り組んでいる。管理者は職員の希望休や有給休暇などの取得について職員間で協力し合い取得できるようにし働きやすい職場環境づくりに努めている。現在、タブレットを導入し、記録の省力化を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の見直しを行い、資格等向上意欲が持てるよう改善している。また、改善点などを聞き、受け入れ、可能な事は改善し働きやすい就業環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護労働安定センター等の紹介による講師を招き『介護技術』『医学の知識』『リスクマネジメント』等、法人内の研修を合同で行っている。 また、人事評価を一人ひとりの力量把握をして指導等行っている。 わからないことがあれば聞き対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修会等への参加を義務付けている。個々に研修内容を選んで受講している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族よりの情報提供を出来るだけ詳しく聞く。入所後はスタッフが詳しく観察し連携を図り、利用者の安心・安全を確実にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どこまで要望に答えられるかをはっきり相手に伝え、その中でよりBESTな方法を提案し要望に近い状態へ持っていけるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって何が今一番必要なかを行動・言動を職員間の情報共有から見極め、支援サービスに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症とか弱者とか隔たりなく生活している。どうかすると利用者がしっかりされている時がある。「皆家族」の雰囲気の中で入所者・スタッフが共に生活している。泣いたり・笑ったりの繰り返し。 時間があると常に利用者との会話を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に共に支えあえる関係でありたいし、本人にとって家族が一番。 信頼関係を築くには共に歩くより他はない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所・友人などが気軽に立ち寄る雰囲気作りを行っている。デイサービスに来られたり、整骨院の帰りに寄られたり、自治会の方の面会もあり交流が続いている。	現在、コロナ禍の為これまで取り組んでいた馴染みの人との交流は自粛している。ホームに隣接して整骨院があり、入居者知人が来訪した際には会話ができるよう配慮している。入居者の親族との手紙のやり取りや電話の対応など関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者間の橋渡し役となりコミュニケーション作りを行い、なかなか話す機会のない利用者と話す時間を作ったり、ロビーに集まりやすい環境を整え、よい環境作りができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後もご家族との付き合いもあり時々、近所に来られたり立ち寄り寄られたりされる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人主体で動かれている困難な時は家族と相談して家族に協力できるところは協力していただきできない時は職員で対応している。	脳梗塞後遺症がある方などは可能な限り職員がかかわりを多く持ち、本人が自ら選択できる支援により、その方が反応を示したものを把握し、日誌や申し送りノートに記録し職員間で情報を共有している。会話が不自由な方や不穏な行動がある方には本人の表情やしぐさ様から思いを汲み取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何よりもご本人の生活歴がサービスの基本である。ご家族や本人との会話の中より把握しレクリエーションの時間などに利用者の方の好きだった事など行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の体調に合わせて臥床を促したり、ロビーにてレクリエーションに参加していただいている。長期入所でだんだん能力も低下していることを家族へも伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	忙しい時間でなかなか、座る時間もないのでスタッフ間の立ち話も無駄にしない、情報は宝であり毎月職員間の話の時間を作りしっかりと情報交換・共有を行っている。	入居者への担当職員制は設けておらず、毎月の職員会議で全入居者の状況を職員が確認し、把握に努めている。週1回、ケアマネージャーが入居者の状況を確認し、本人の要望や身体の状態の把握に努めている。ケアプランチェック表を用いて日々の実践上で介護計画の実施状況を記録できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	新入職員が多いため、申し送りノートに細かく記入し、いつだれが見ても振り返りができるように指導し、記入漏れがないか確認を行い確実に行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの協力を得ながらその時の状態に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りが田園地帯であり季節感が肌で感じることが出来る。又近くに小学校があり子供たちの元気な声が聞こえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ協力医療機関での受診であるが、中には以前からのかかりつけ病院での受診の方もおられるつながりを大切に行きたい。	職員による受診支援と遠方の医療機関への受診等必要に応じて家族にも協力を求め、受診同行を行っている。月に2回は歯科の往診も行われている。受診時には個人記録や日誌等を持参して円滑に受診できるよう入居者の情報を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師は外部との契約であるが、とても熱心で相談も心安くできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合はほとんどが協力医療病院であるので 相談がしやすい。家族との連携も取りやすい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時看取りの説明を行っている。必要となってきたとき改めて家族・医療機関との話し合いを持ち、どのように対応するか決めている。 また、職員も看取りについて学んで、対応ができるようにしていきたい。	入居時に看取りに関する説明を行い、本人・家族から同意を得ている。これまで看取り支援を実施したことはあるが、現状の体制では看取りの対応をすることが難しいと管理者は思慮しており、今後は職員への研修や医療との連携体制を充実させていく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より急変については予期し、スタッフで共有している。対応はマニュアル化しすぐに対応できるように見えるところに掲示している、また急変時対応の勉強会にも積極的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難誘導訓練・自主訓練等行っている。災害対策等はスタッフの中にいる地区消防団員が中心になって行っている。また地域の自衛消防の大会などに参加して一人一人の意識向上に努めている。	今年度の避難訓練はコロナ禍の為すべて自主訓練とした。訓練は昼夜想定で実施し、隣接する同法人のデイサービス事業所と合同で行っている。ハザードマップを玄関入り口に掲示し、避難経路の確認に活かしている。	職員の入れ替わりもあり、消防訓練に参加できていない職員がいることを踏まえ、次回訓練時には参加できるよう配慮することが望まれる。また、入居者情報が一覧で分かる書類を整備し名札の準備もあるので、ADLが確認できる写真を追加するなどして避難所で円滑に本人確認できる工夫を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの言葉がきつくないか常に気に留めるようにしている。気にかかるような対応があった場合は職員が変わり対応している。	職員は入居者とのかかわりで個別の場合と他の入居者がいる場合とで使い分け、個別のかかわりができる場面では親しみを込めた対応を行っている。入居時には個人情報の取り扱いについて説明し、事例検討を行う場合などは個人名を伏せたものを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の希望を聞くようにしている。希望があれば家族へ伝えている。又家族の思いを本人に伝え、自己決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調により対応し本人の希望がある場合は時間を作り希望の対応ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調により対応し本人の希望がある場合は時間を作り希望の対応ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の機能低下により見守り、介助が必要となり一緒に食事をすることができなくなった。	食事は調理専門職員及び職員が調理している。入居者の嚥下・咀嚼能力に応じた食事を提供し、食事制限がある方には医療機関の栄養士が作成した献立表を基に隣接のデイサービス事業所の調理師が食事を提供している。入居前に嗜好調査を行いアレルギーについても把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	呑み込みができにくくなっている人にはトロミ剤を使用し、誤嚥が無いように気を配りながら介助している。また嚥下の状態をしっかりと確認し無理なく食事をさせていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず全員の口腔ケアを見守り、介助で行っている。また、家族・本人が希望する場合は連携歯科医院で定期検診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄がある場合は訴えてもらうように声かけを行うことと、時間誘導を行っている。ご本人の希望をできるだけ尊重しトイレでの排泄を支援している。	日中はトイレでの排泄を促し、尿意を訴える入居者については職員が見守りに対応している。日中、傾眠傾向がある方には夜間帯の十分な睡眠を優先した介助に取り組んでいる。水分補給に留意し、水分摂取状況や排便状況に応じて適宜調整を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立を提供している。慢性疾患をそれぞれ持って入ってこられるので、それぞれの体調機能に合わせて提供し、排泄管理から排便状況を確認し調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおよその入浴日は決めているが病院受診などがあったり面会などで入れなかったりしたときは日や時間を変更して行っている。本人の希望にも対応するようにしている。	週2回、日に3人ずつ、入浴日を設定しているが、本人が希望すれば毎日の入浴にも柔軟に対応している。入浴時は一時的に暖簾を用いてプライバシーや羞恥心に配慮している。好みの入浴剤を入れたり、入浴後は皮膚の状態に応じて保湿剤を塗布するなど配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の逆転がないように支援している。熟睡時間などをチェックしている。一人ひとりが、ゆっくりと休めるような空間を提供できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局を決めているため薬剤師の方に相談しやすい。薬剤師が直接担当医と話をしてくださるので心強い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事への取り組みでそれぞれに得意・不得意があり気分を壊さないように見守りながら行っている。レクリエーションをし、歌やゲームをして楽しめるような環境を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との触れ合いをお願いしても家族からは、いい返事がもらえない。スーパーなど大型点へお買い物に行っている。また、少しの散歩やドライブにも出かけている。外出ができない方は天気の日以外におやつなど食し風景などを楽しんでもらう。	現在、コロナ禍の為ホーム全体での外出は自粛している。尚、日曜日にはドライブを計画したり、近隣小学校の桜を見に出かけるなど、個別に外出の機会を設け入居者が気分転換を図れるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在買い物に行かれる方は少なく、行こうとされる方も少ないため、対応していないが機会がありかけた場合は、本人から直接支払ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くにいる子供さんや親戚の方から電話がかかってきて話されている。施設入所中の子供さんから手紙などが届く。届いた写真などは部屋へかざるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすでの生活者が増え、手押し車利用者の人が躓いたり、転倒したりしないよう、又車いすの人がぶつからないよう注意を払っている。レクリエーションで作った作品を季節に合わせて展示している。自分の作品を見ながらニッコリされる。	共用空間には時季に応じてひな祭りや桜などの飾りつけを入居者と職員が一緒に行っている。また小中学生がホームへ体験に訪れた際の写真も掲示している。週4回、清掃担当職員が要所の清掃を行っている。共有部分にはソファを設置し、入居者同志の関係性を配慮した配置を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ顔が見える場所での生活を心がけ、一人居室にこもることのないように声掛けを行っている。ロビーでも利用者同士が話しやすい環境にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段よりご本人が使い慣れたものを、持って来てもらい安心できる場所においてもらっている。長年慣れ親しんだ物や家族が持って来られるもので、自分の部屋作りをされている。	居室にはテレビや携帯電話のほか仏壇・位牌も持ち込むことができる。家族の写真や入居者が使い慣れたものを持ち込み、居心地良く過ごせるよう配慮して。家族より宿泊の希望がある場合には柔軟に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでありトイレなど車いすで自由に動かれる。トイレ移乗など必ずスタッフが付き添い安全の確認を行っている。自室までできるだけ自立で動いてもらっている。		